

おお大勝利

令和2年度 山東サッカー部報第8号 (10月30日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

県新人への切符逃す 選手権も敗れる

部報作成遅れ、大変失礼いたしました！

待って下さっている読者の方がいるのは重々わかっていたのですが、「**公務多忙**」により、**作成できませんでした**。決して、戦績が悪かったからではありません。もし戦績が悪いと書かないのであれば、ここ数年部報は書けなかったはずですから。その「公務」に、県高体連サッカー専門部の委員長としてコロナ禍の中での大会の準備実施に手間取った、という点もほんのわずか関係していますが、メインの理由はそれじゃない。理由は何と！ 古典的ではありますが、**授業準備が大変で・・・**。「山東 15年目なのに授業準備が大変で他の仕事が滞るなんて、嘘くさい」と私が読者でもそう思いますが、本当なのです。ここで私の授業について語るのも変ですが、私が受け持っている1年生の「現代社会」と3年生の「倫理、政治・経済」のうち、「倫理」の学習は、これまで、その多くを市販の問題集によって行ってきました。私の作成した自前プリントでも学習してきましたが、その範囲は3割ほど。残り7割はプリント作成の労を端折って、市販の問題集のまとめ部分を活かして説明してきました。ただ、そうすると、「学習は常に授業プリントに立ち返れ」と言えなくなる。「授業プリントと問題集に立ち返れ」と言わなくちゃいけない、なんかしっくりこない。市販の問題集を使い授業を行って楽は楽なんです、やはり**立ち返るものは一つでなくてはならない**。そんな忸怩たる思いを、「倫理、政治・経済」のセンター試験が始まるため「倫理」を山東で開講した2012年から抱いてきた¹。「いづれ倫理でも(現代社会や政経のように)自前のプリントで学習させなきゃな～」という思い。そして、その思いを、今年実行しようとして昨年決めて、市販の問題集を生徒に買わせなかった。すると・・・以前作ったプリントの範囲が終わり、新たなプリントを作成しなければいけない範囲に至った**9月後半から、プリント作成に追われる毎日**。勤務上は早めに帰宅していても、子どもを寝かせた10時くらいから、家でパソコンに向かう。元来、授業の準備は嫌いではないのですが、3年生の授業が週3.15コマとハイペースにやってくる、しかも、放課後の講習もある。ということで、**自転車操業の毎日**でした。そして、10月末に至り、ようやく授業プリント作成の仕事から解放され、今こうして部報作成に向き合うことができました。その間、多くの方から、「新しい部報まだなの?」「HP クリックしてばかりいるんだけど」とのありがたい叱咤激励を頂戴しました。大変すみませんでした。来年からは、今年がんばって授業プリント作成したおかげで、授業準備で部報作成が滞ることはありませんので、ご安心を！

¹ 2012年以前には「政治・経済」のみのセンターの受験で良かったので、山東では「政治・経済」のみを開講してきました。対して、山形西では「倫理」のみ開講していました。どちらを選ぶかは担当者や生徒の資質の問題で決まっていました。しかし、2013年1月のセンターから旧帝大以上のレベルを目指すには「倫理」と「政治・経済」の合わさった「倫理、政治・経済」を受験しなければいけなくなったのです。ということで、山東6年目にして倫理も教えなければならなくなったのです。

ということで、前号（9月10日号）からの公式戦一切を駆け足でレポートします。**もうあまり覚えていない**ので、「なんとなく」の感想ですみません。

9月12日（土）、13日（日）地区新人が行われました。山東の初戦の相手は**東海大山形**（場所は山形市球技場）。言わずと知れた強豪。選手には、「1年生大会で負けた相手との再戦。どちらがあれから伸びたか、勝負だよ。」と話していました。でも、山東は1年生（当時）が8名しかおらず、2名他の部の経験者から借りて10名で出場したに過ぎないので、1年生（現在）を補充した今年のチームは全く別チームと言っていい。そんな細かい話はせず、先のような言葉を投げかけ、1年生大会よりも良い戦いをして、成長を実感する予定でした。ところが・・・意図的にリトリート（退却）²して守りを固め、少ないチャンスをものにする作戦に出たにもかかわらず、東海の猛攻に何もできない。少ないチャンスどころか、チャンスそのものが作れない。前半こそ耐えた山東でしたし、相手もあれ程引いてきたチームを経験したことがなかったので、少し攻め急いでいるように感じました。しかし、結局、後半崩壊。後半3失点し、0-3で完敗。実は私、去年の1年生大会を観ていないのですが、おそらく、これほどまでの完敗ではなかったのではないかとすなわち、**差が広がったことを実感する地区新人となりました**。これで、4年連続で県新人の切符を逃す。残念。

9月21日（月）、22日（火）は県リーグの13節酒田南戦と14節鶴岡南戦。13節酒田南戦は、本来9月20日（日）に実施される予定でしたが、諸般の事情で翌日にずれ込んだ³。13節の会場は東根中央公園、14節の会場は山形明正。まず酒田南戦から。酒田南の中盤の選手、スキルがある。DFからビルドアップもしてくる。山東は低い位置からのビルドアップは「やってダメ」とも言っていないし、逆に「DFは相手の状況を観つつ積極的にGKからボール受けていいぞ」と言っているが、自信がないのか、受けようとしない。んで、GKのロングキックに頼るのだが、それが攻撃の出発点になっていない。うまく行っていない。「なら、やり方変えて、後ろからつないでいこうか」というのは選手の中から出てきてほしい発想。**いつもショートパス（つなぐの）も、いつもロングキック（蹴るの）も、どちらも正解とは思わない**⁴。まして、ロングキックがうまく行っていないのなら、なおさら。ただ、県リーグには地区新人と異なり、**個の力のあるヒラマサとユッキーという3年生**がおり、切り札があるのは大きい。前半山東は東海戦で「ドン引き」した名残か、DFラインが押し上げないものだから、MFとDF間が空き過ぎて、相手の選手に良いように間を使われる。前半の前半は明らかな酒田南ペース。途中から徐々に山東の積極的なディフェンスも見られるようになった。酒田南の攻撃、クロスを山東DFが跳ね返せないでこぼしたところを決められ、失点。しかし、前半のうちにCKのこぼれ球を、**学力とサッカーIQがともに高い久々の存在1年ボランチのシュンスケ**が詰めて同点にして、前半を折り返す。後半の前半は山東攻勢だったと記憶しているし⁵、HPでも清野総監督が試合後に「あの時間帯でしっかり決めておけば」と語っている。しかし、連戦を意識して、体力に課題がありまた腰痛等の持病持ちのヒラマサを後半15分で交代させてからは、相手の時

² 卓抜な会話力を誇る**山形城北高校監督のW先生**は、以前、意図的に退却したわけではないのに、相手との力の差から防戦一方となり自陣にくぎ付けになることを「**自然リトリート**」と命名されました。今回、東海戦に当たって「意図的にリトリートしました」と報告したところ、「**意図リート**ね」とまたまた造語して下さいました。ありがとうございました。

³ ということもあり、Y2A事務局の酒田南監督の判断で、この試合は県リーグの公式戦ではなく、あくまで練習試合という申し合わせで行われました。しかし、山東としては普通の県リーグとして臨みましたが、そのようにカウントさせていただきます。

⁴ 練習としてどちらかに限定するのも、一つのやり方だと思いますし、徹底してつないで技術を押し出そうとするチームカラーが存在するのも知っていますが、相手の状況を観てやり方を決めるのが大人のサッカーだと思うし、高校からは大人のサッカーを目指すべきだと私は思います。

⁵ 私の記憶ではなく、この部報を書くために聞いた高橋コーチの記憶では。

間が長かったか。相手 FK に対して、誰もマークに行かずドフリーでヘディングシュートを許し、2 失点目。競り負けたのならいざ知らず、競ってすらいないのは情けない。そして、試合終了間際に、ビューティフルロングシュートも決められ、3 失点。計 1-3 の完敗。

翌日は鶴岡南戦。翌々週には進学校大会でも対戦するが、まず公式戦で勝ちたいところ。前日負けた酒田南が、代替大会でも地区新人戦でも負けているとのことで、かなり警戒して試合に臨む。前半はどっちもどっちの展開。サイドを簡単に破られ、まずは鶴南先制。前半山東にもチャンスはあったが、**弱いチームに共通の決定力不足(という課題)**。シュートが偶然決まらないのではなく、これこそ実力です。後半は山東のワンサイドゲーム。後半 10 分過ぎだったか、ヒラマサが左サイドを抜け出し折り返すと、相手もすべてニアサイドに引き付けられていたか、ゴール前がガラ空き (GK もニアサイドにいてガラ空き)。それを、後半から右 SH で出場し、ヒラマサのクロスを逆サイドから駆け上がった**2 年寝会部長オニコシ**が丁寧に合わせ、同点。正直、この試合も繰り返しビッグチャンスを (チームの誰かが) 外していたし、同会場で行われた県リーグ戦の鶴工戦でも外しまくったイメージがあり、本当に本当にただ触るだけの「完全ごつつあんゴール」だったのですが、オニコシが急角度で上に打ち上げるなど、外すイメージしかわかなかった。それを、**当たり前と言えど当たり前ですが、しっかり決めてくれた**。試合後、彼に「外すと思ったよ」と声をかけると、「自分が一番そう思っていました」との正直な返答。そして、CK から**シュンスケ**がまた合わせて決めた。シュンスケ、CK がらみで 2 得点目、逆転ゴール。そして、仕上げは、試合終了間際、**ユキタカ**の無駄のないキックモーションから放たれた**左足のロングシュートが見事に決まるゴラッソ**が出て、3-1 の勝利。ん〜、酒南に負けて (その酒南に勝った) 鶴南に勝つ、これをどう考えたらいいのだろうか。ちょっと首を傾げてしまいましたが、鶴工戦に続き、前半曖昧な戦いをして、後半は自分たちのワンサイドゲームになる。これも首を傾げたくなる現象。後半に強いのか。いや、相手の問題の方が大きいように感じる。ともかく、山東が**後半ワンサイドになる相手に対して前半しっかり優勢に試合を進められない中途半端すぎる実力**しか持っていないということは確か。

そして、テスト休みを挟んだ翌々週の **10 月 3 日 (土)、4 日 (日) は、第 11 回山形県進学校サッカー大会**。第 9 回・第 10 回と福島のア積高校が来てくれて計 7 校で行ったが、コロナ禍の影響もあり今年は参加されず。ということで、県内進学校 6 校で大会を行う。この大会は、進学校間でサッカーの交流をはかり、刺激し合うことを目的に始まった。過去には、外部模試を複数校合同で夜実施したこともあった (進学校大会らしく)。この大会ができた経緯は昨年部報に書いたもので、掲載しておきます (12 号)。

10 月 5 日 (土) と 6 日 (日) は恒例の進学校大会。なんと今年、10 回を迎える記念大会となった。この大会、当時酒田東高校監督の石川先生と山形南監督の良二先生とが、「山東が呼びかけて、進学校大会開いてよ」と発案したことから始まる。第 1 回の開催において、公務で欠席されたが石川先生からご祝儀を頂戴し、他に使う当てがないからと中身はお返しし、袋だけ頂戴した思い出がある。その石川先生が第 2 回の開催を待たずに急逝されたのは、本当に悲しい出来事だった。ということで、私の中では進学校大会が来ると石川先生を思い出すのです。

山東は酒田南、鶴岡南と引き分け、新庄北と米沢興譲館に勝ち、2 勝 2 分けで最終戦の山南と対戦。山南はここまで全勝で、すでに優勝を決めている。この大会としても消化試合でしかないですが、山東はここ最近負けてばかりなので、あちらは選手権前の調整の試合でしかないでしょうが、気合を高めて試合に臨む。内容は、**4-4-2 のシステムの 3 ライン間が間延びせず戦い、県リーグ酒南戦から進歩が感じられた山東**が守備で粘り、五分五分か四分六の接戦。まずは FK から山南が先制。これは、「**オニコシの相棒**」**2 年 GK コーサー**にとって悔しい

失点だった。絶対止められないシュートではなかったから。しかも、モンテ村山の同期に決められた。山東も左からのCKをヒラマサが折り返し、それを「**われらが主将**」**2年テグチ**が詰めて、同点にして、前半終了。テグチ、この試合だけでなくその他の試合でも複数得点を決めて、この大会ブレイク。「でも選手権でブレイクできなきゃね〜」と選手権終わった地点(現時点)からはこの思いぬぐえず。結局後半CKのクリアが(外ではなく)中に転がったボールをボレーでぶち込まれ、1-2でやはり敗戦。山南の2点目は、ゴラツソのレベルの得点であり、あのような得点を決める力は偶然ではない。**山南の全勝優勝**となって大会終了。

そして、翌週**10月10日(土)、11日(日)からは、選手権開始**。山東は**10日1回戦新庄東**との対戦。会場はまたもや東根の人工芝。新東は以前選手権の決勝まで行き、Y1の常連でもありましたが、部員数の減少により、現在は苦しい台所事情。とはいえ、その相手に山東が「まあ、負けることはないだろう」などとゆったり構えられないところが、新東同様苦しい。試合は、前半五分五分。山東が良かった記憶もないので、実際は四分六だったか。後半、伸び代ある選手を輩出することで有名な**S監督率いるアスキーFC出身の1年ボランチグッチ**が右サイドで仕掛け、相手をはがし、GKとDFの間にセンターリング。それをとうとう決めた！**3年ヒラマサがファーサイドでスライディングシュートを決めて、山東先制**。代替大会、県リーグ含め、ここまで何とシュートを外しまくってきたことか。「ため息製造機」と化した今シーズンでしたが、最後にやってくれた。まあ、シュートを決めてなくても、オニコシのシュートをアシストするなど、仕事をしてきてはいましたが。でもやはり「FWはシュート決めてなんぼ」。この得点、彼に1年からずっと口酸っぱく言って、なかなか聞いてもらえなかった⁶、ファーサイドに回り込む「**ボールから離れる動き(フルアウェイ)**」からの得点であり、**彼の(人間としての、かつ、サッカー選手としての)成長を示した得点**でした。私も感慨ひとしお。最後に、相手GKのファブルを詰めた**ユッキーの得点**により、2-0で山東の勝利。**3年生が最後の大会で得点者に名を刻んだのは、素直にうれしい**。ただ、試合展開は、失点してもおかしくないシーンがあり、観ている保護者の方に緊張感を強いるというか、常に安心させないというか、稚拙な試合運びではありました。

そして、2回戦の相手は**第1シードの羽黒高校**。当たって砕けろです。作戦は、地区新人同様の「**意図リート**」(この部報の注2参照)。会場は1回戦と同じ。試合が始まると、もちろん攻められ、ヒヤッとするシーンをつくられるも、羽黒の方が焦っていた。攻められているが、**こちらは守ってPK合戦上等**なので、攻められても焦る必要はない。前半守り切るかと思った39分、サイドでしっかりボールを奪いきれずセンターリングを許すと、中で合わせられて失点。後半は完全ワンサイド、安心してボールを保持する羽黒にいいようにやられて、結局0-4の完敗。実力差を反映したスコアではありましたが、前半持ちこたえておけば・・・というもったいない気持ちは残った。でも、それも実力です。

選手権まで残ったユッキー・ヒラマサお疲れ様。最後まで頑張ってくれました。あとは、**選手権まで残る後輩を輩出するためにも、「選手権残っても志望校に受かる」という事実を作ってもらいたい**。体育系進学を考えているので実技もあるが、**まずは勉強頑張りなさい**。これで、**山東の今期公式戦終了**。私が書かなかったこともあります。部報は最少の8号で公式戦終了。もちろん一年生大会あり、それもレポートしますが、公式戦とは呼べないので。一年生大会の日程まだ決まっていないので、ここに記すことができません。第9号でまた会いましょう！

⁶ どうしても、ボールをニアに斜めに走るダイアゴナルの動きをしがちで、①マークする選手からはボールとマークする相手(ヒラマサ)が同一視しやすいため、マークを外しにくい、②どうしても中から外の動きとなるためボールをもらった段階でゴールに背を向けたもらい方になりがちで、プレーがゴールに直結しづらいなど、難点の多い動き。